

高校生へ 私が選んだ 1冊の本

研究するって面白い！ 科学者になった11人の物語

伊藤 由佳理：著
岩波ジュニア新書

この本を読んで

世界には様々な方面で活躍している女性がたくさんいる。そんな中、近年注目を集めているのが「リケジョ」、と呼ばれる理系の女性たちである。日本の理系の人の中で占める割合の少ない女性が国内外でどのような活躍をしているのか、この本では垣間見ることができる。本書では、数学・医学・化学・薬学・生物学などの研究をしている11人の女性研究者の今に至るまでの道のり、研究内容、その魅力などが鮮やかに描写されている。誰も研究者を目指していたわけではなく、十人十色で誰一人として同じような人生を歩んできた人はいない。多方面の専門分野の最先端の研究をしている彼女たちには様々な共通点が見られた。

1つ目は、「人との出会い、関わりを大切にすること」である。出会いは時に、大きな方向転換の契機になることがあり、研究する上で所属する大学を超えての研究者同士の関わりが鍵となることもある。彼女たちは自ら進んでセミナー等に参加したり、他の研究者と知り合う機会を模索したりし、自らの向上、専門の幅を広げていた。

2つ目は、「自分の好きなことを突き進んでいってとても楽しそうなこと」である。研究内容の中には、専門的要素が強く、私の理解不足な点もあったが、どの研究も非常に画期的で素晴らしく、とても興味がそそられた。また、文中に「私は私、変わりはいない。」という文があった。そこから自分の研究に対する熱い思い、責任の大きさ、研

究に対する誇りが感じられた。

3つ目は、「活動的で意志が固いこと」である。大学では文系専攻でその後就職したが、よりやりたいことを求め退職し、理系の大学院に進学して今の研究者という職に落ち着いている女性研究者がいた。私はこの女性の常に現状に満足しない貪欲さ、自分を奮い立たせる意思、行動力に驚きを感じるとともに尊敬の念を抱いた。他にも、「社会の常識は自分にとっての常識とは限らない。」という描写から、型にはまらず自分は自分、という固い意志が感じられるものもあった。

4つ目は、「どんな時も“女性”という概念にとらわれないこと」である。新しい道を恐れずに様々な場へ進んでいく女性研究者の姿はこれからの女性の目指すべき姿となると思う。

また、どの女性研究者も文中に“研究”に対しての熱い思いが描かれていた。彼女たちはどのような困難があっても研究に対する好奇心、真実への探求心、研究を続けることの大切さを忘れず、自分の可能性を信じ、前に進むことで道が開けることを知っている。

日本でも女性の理系への進出が推進されているが、諸外国と比べると日本はまだまだ発展途上である。文中にも「日本にいると想像もつかないことが海外では当たり前なことがたくさんある。」「常に視野を広く持て。」という描写があった。また、女性研究者の中には、男女差別が多く見られ、女性の大学への進出に批判的であった時代に大学に進んだ方もいる。そのことを考えると私達は今、とても恵まれた環境にいることがよくわかる。自分を含め、これからより理系の道に進む女性が増えればと思う。私自身、国内外で活躍している様々な女性研究者の存在を知り、彼女たちのような人材になりたい、と改めて強く思うようになった。この本を読んだ人が少しでも理系に興味を持ち、研究者への道を歩んで欲しいと思う。

少女よ、大志を抱け！

(千葉市立千葉高等学校2年 小野関 友佳)